

## 「創造都市・北九州」の実現に向けた取組みについて

### 1 「創造都市・北九州」取組みの経緯

#### (1) 創造都市とは

産業構造の変化により、都市の空洞化や荒廃が問題となる中、欧州などでは、文化芸術の持つ創造性を活かした産業振興や地域活性化の取組みが行政や芸術家、企業、大学、市民の連携のもと進められ、都市再生を図っている。こうした取組みを行っている都市を「クリエイティブ・シティ」、日本では「創造都市」と呼び、国内においても国や先進的な都市において積極的に進められている。

#### (2) 北九州市文化芸術振興計画での「創造都市」の位置付け

##### 北九州市文化振興計画【平成 22 年策定、平成 28 年改訂】

###### 【基本理念】

市民が文化芸術を身近に感じ、市民自身が文化芸術を支えるまち

###### 「創造都市」の 位置付け

施策 7・文化芸術によるまちづくり  
(3) 創造都市への取組み

本市では、平成 22 年に「北九州市文化振興計画」を策定、平成 28 年に改訂している。施策の一つに「文化芸術によるまちづくり」を掲げ、「創造都市」への取り組みを推進していくこととしている。

### 2 これまでの主な動き

#### (1) 創造都市ネットワーク日本 (CCNJ) への加入

創造都市ネットワーク日本 (CCNJ) は、創造都市の取組を推進する地方自治体等、多様な主体を支援するとともに、国内及び世界の創造都市間の連携・交流を促進するためのプラットフォーム。わが国における創造都市の普及・発展を図ることを目的として、平成 25 年 1 月に設立された。

本市は、平成 28 年 4 月より加入、今年度より九州ブロック幹事都市として、各都市とのネットワークづくりに取り組んでいる。

参加団体：144 団体 (103 自治体、41 団体) (H30 年 3 月現在)

## (2) 組織体制の強化

「創造都市・北九州」を推進するため、課長以下の担当ラインを新設し、庁内の推進体制の強化を図った。(H29年12月)

## (3) 市民の機運醸成

「創造都市・北九州」の実現に向け、市民への周知や機運醸成を図ることを目的にして、「文化創造都市・北九州フォーラム」を開催した。

### 【開催概要】

開催日：平成30年2月25日(日)

会場：ステーションホテル小倉

参加人数：400人

内容：

- ・基調講演(文化庁次長 中岡司)
- ・特別講演(同志社大学特別客員教授 佐々木雅幸)
- ・パネルディスカッション  
「文化創造都市・北九州」を目指して  
(コーディネーター/北九州市立文学館 館長 今川英子)  
(パネリスト/北橋市長 ほか)



## (4) 文化庁長官表彰(文化芸術創造都市部門)の受賞

地域資源を活かして、「映画の街」、「文学の街」をはじめ、音楽、演劇、美術、漫画など様々な取組を展開するとともに、世界遺産をはじめとする多様な文化遺産の保存と活用を図りながらまちづくりを進め、都市の持つ魅力を高めていることなどが評価され、平成30年3月に同賞を受賞。(福岡県内の自治体では、初の受賞。)

### 文化庁長官表彰(文化芸術創造都市部門)とは

文化芸術の持つ創造性を地域振興、観光、産業振興等に領域横断的に活用し、地域の特色を生かした文化芸術活動や社会課題の解決に、行政と住民との協働、行政と企業や大学との協力等により取り組み、特に顕著な成果をあげている市区町村に対し、文化庁長官が表彰するもの。(平成19年度から実施)

## (5) 文化庁補助事業の積極的な活用

### ①メディア芸術創造拠点推進事業

- ・「先進的文化芸術創造活用拠点事業」採択（H29年度）
- ・「国際的文化芸術発信拠点形成事業」採択（H30年度）

地域経済の発展を牽引する漫画・アニメを中心とした国際的なメディア芸術創造拠点の形成に向けた、芸産学官連携による人材育成やネットワーク構築、国際的なイベントを実施する。

### ②東田地区ミュージアムパーク創造事業

「地域の美術館・歴史博物館クラスター形成支援事業」採択（H30年度）

いのちのたび博物館を中核として、周辺施設が連携し、地域の活性化やインバウンドの取込につなげるため、面的・一体的に事業を実施する。

## 3 東アジア文化都市の開催

### (1)「東アジア文化都市」とは

日中韓3か国において、文化芸術による発展を目指す都市を選定し、その都市において、現代の芸術文化から伝統文化、また多彩な生活文化に関連する様々な文化芸術イベント等を実施するもの。東アジア域内の相互理解・連帯感の形成を促進するとともに、東アジアの多様な文化の国際発信力の強化を図ることを目指している。（2014年から開始。）

「創造都市・北九州」実現の大きな推進力とするため、また、都市ブランドを国内外に効果的に発信するため、本市も「東アジア文化都市」事業の誘致に取り組み、今年8月に2020年の開催地に決定した。

#### 【開催都市・予定都市】

開催年	日本	中国	韓国
平成26（2014）年	横浜市	泉州市	光州広域市
平成27（2015）年	新潟市	青島市	清州市
平成28（2016）年	奈良市	寧波市	済州特別自治道
平成29（2017）年	京都市	長沙市	大邱広域市
平成30（2018）年	金沢市	ハルビン市	釜山広域市
平成31（2019）年	豊島区	未定	仁川広域市
平成32（2020）年	<u>北九州市</u>	未定	未定

## (2)「東アジア文化都市 2020 北九州」企画提案概要

### ①テーマ

アジアのアーツゲートウェイ KITAKYUSHU

### ②コンセプト “文化創発”～多様なアートが新たな価値を生み出す～

東アジアをはじめとする多様な背景を有するアーティスト、市民、産業界が集い、個々人が持つ豊かな知恵やアイデア、創造性を最大限に引き出しながら、それらを交流・融合させていくことで新たな価値を次々に生み出し進化する都市を目指す。

### ③実施スケジュール

一年を通じて様々な文化芸術事業や交流事業を開催する。また、文化芸術関連イベントを集中して開催するコア期間を設定する。

事業内容	時期
プレイベント	2019年12月
オープニング式典	2020年2～3月
コア期間①：オリパラ・ウェルカムプログラム	2020年7月下旬～8月中旬
コア期間②：東アジアアートプログラム	2020年10～11月
クロージング式典	2020年11月下旬～12月上旬
通年事業（開催都市間交流事業、市主体事業、市民企画事業 など）	

### ④4つの柱「コア事業」

北九州市の強みや特長を生かし、4本の柱「コア事業」を定め、「東アジア文化都市・北九州」を世界へ発信する取組みを提案した。

#### ●伝統芸能

東京オリンピック・パラリンピックで世界の目が日本に向けられている2020年に日本や北九州市の魅力を国内外へ広く発信するため、日本や東アジアの伝統芸能が集結する「(仮称)東アジア伝統芸能饗宴」の開催。

## ●メディア芸術

北九州市では「北九州市漫画ミュージアム」を拠点施設として、漫画・アニメの魅力を幅広い世代に発信している。また、全国に先駆けてフィルムコミッションの活動にも取り組んでいることから、これらを中心とした「(仮称) アジアメディア芸術祭」の開催。



北九州ポップカルチャーフェスティバル 2017

※「平成 30 年度国際的文化芸術発信拠点形成事業」採択（文化庁）

## ●文学

北九州市には森鷗外、火野葦平、林芙美子、松本清張などゆかりのある作家が多く、2つの市立文学館、商店街には文学サロンを開設、文学賞の実施など文学に力を入れている。こうした文化土壌を生かし、東アジア文化都市の提案では初めて「文学」を柱とした提案を行った。本市ゆかりの作家等にも協力を得ながら「(仮称) 東アジア文学会議」の開催。



北九州文学サロン

## ●A r t for S D G s

北九州市は、「ものづくりのまち」として、官営八幡製鉄所関連施設が世界文化遺産に登録されたほか、国際環境協力で東アジアにも技術貢献するなどし、今年4月、OECD からアジアで唯一 SDGs のモデル都市に選定された。

八幡東区東田地区において、2030年のSDGs達成に向けた「環境・社会・経済」が調和する未来の都市・社会像をテーマとした屋外イベント「(仮称) 東田アートフェスティバル for SDGs」の開催。

※「平成 30 年度地域の美術館・歴史博物館クラスター形成支援事業」採択（文化庁）

## ⑤期待する効果

- 本質的価値の向上
  - ・世界水準の芸術と掛け合わせることにによる本市の文化芸術の質の向上
  - ・子どもの参加や交流による文化芸術の次代の担い手育成
- 社会的価値の向上
  - ・高齢者へのアウトリーチや障害者アートの振興による社会包摂機能の活用
  - ・東アジア域内の相互理解・連帯感の形成
- 経済的価値の向上
  - ・多言語化の整備促進や文化施設の観光資源化
  - ・世界遺産やユネスコ無形文化遺産、日本遺産など地域資源を活用した観光振興
  - ・メディア芸術に関するクリエイターや芸産学官のネットワーク構築及びコンテンツのビジネス化・産業化

## ⑥今後の進め方

- 市民の機運醸成のための広報・啓発

各種媒体を活用した広報や開催記念イベントの実施等に取り組み、市民への広報による事業開催への気運の盛り上がりを図る。
- 実施体制の構築

事業実施にあたり、庁内の推進体制を整備するとともに、文化芸術の専門家など芸産学官が参画する準備委員会を立ち上げる。